

## 地域活性化のため 垣根を越えた連携を



長浜ビジネスサポート協議会  
会長 大塚 敬一郎 さん

商店街が衰退し、昔からあった地域産業は崩れ、全てが都心へ集中する、そんな傾向が全国で見られます。地域に活気を取り戻すためにも起業者を増やすことはとても重要です。

ビジネスサポート協議会は市の合併に合わせ、市内の商工会と商会議所が連携し、市内中小企業とともに経済を活性化させようと2年前に立ち上がりました。

今年は、市が「創業支援事業計画」認定を国から受け、その事業として7月には「ながはま・こほく創業塾」を初開講。幅広い分野をわかりやすく学んでもらえるようゲーム形式の講座をはじめ、マーケティング、人事、簿記などそれぞれ専門家による創業のためのポイントを押さえたカリキュラムを実施。10月からは第2期も開催します。

支援制度が整ってきているので、起業することは、すごく難しい事ではなく、一か八かのかけに出るような事でもなくなっています。  
今後は市内の連携はもちろん、近隣の彦根や米原とも広域連携を図り、まちや組織の垣根を超えて一緒に取り組んでいく必要があります。

長浜は、昔から市民の力で窮地を何とかしようと取組んできたまちです。一人ひとりの力でまちを活性化し、子や孫の世代にも住み続けてもらえる魅力と誇りを持てるまちにしていきたいと思っています。

## 「強い思い」が 起業につながる



一般社団法人 バイオビジネス創出研究会  
代表理事 大塚 良彦 さん

長浜バイオインキュベーションセンターは起業支援施設です。バイオに関する事業だけでなく、様々な領域の創業や事業化を支援し、既存会

社の第2創業や海外販路開拓も支援しています。

昨年には「事業支援室ドリームプラス」を設置。ここでは事業の形がはっきり見えていない人でも、ビジネスとして成立するように支援を受けられます。インキュベーションマネージャーが、経営の知識、ノウハウ、経営資源をはじめ「物心両面」をマンツーマンでサポートして、事業化にこぎつけています。

起業成功に一番必要なのは「強い思い」です。夢を叶えたい、やってみたいという「強い思い」は、壁を乗り越える力になります。実際に、学校の先生を定年した人で「子どもたちに農業を伝えたい」と強い思いを持って支援室を訪れた人が、その思いを形にするために起業に至ったケースもあります。

バブルがはじけて以来、起業しようとする人は減り、若者が夢や希望の持てない時代が続いています。私たちは「長浜地域で働ける場所」を作り、人口流出を防ぐ為、起業に成功し地域に元気な人を一人でも多く生み出そうと支援し続けています。一灯照隅のごとく、一人ひとりが灯りをとせば、地域全体が明るくなります。心に思いをお持ちの皆さん、気軽にセンターまでご連絡ください。一緒に白地のキャンパスに絵を描きましょう。

地域の子どもたちには、山岡孫吉氏や下郷傳平氏など長浜の先人の進取果敢な取り組みが、今日にたくさんの恩恵を与えていることを知ってほしいです。うらやましいほど地域資源があるまちだと思います。

## 金融機関と地域は 『共存共栄』



滋賀銀行湖北エリア統轄店長 兼  
長浜支店長 根尾 裕之さん

地元の4金融機関（滋賀銀行、長浜信用金庫、大垣共立銀行、関西アーバン銀行）は6月、市内での創業支援や地域産業の活性化に向けて「長浜市ビジネスチャレンジ相互連携協定」を締結しました。

滋賀銀行では以前より、①「サタデー起業塾」開講によるニュービジネスのヒントの提供②ニュービジネス支援ネットワーク「野の花応援団」による産学官連携③多様なニーズにお応えする「ニュービジネスサポー

ト資金」の提供など、取引先の新たな成長をサポートする活動を推進しています。また昨年4月、本部に地域振興室を立ち上げ、地公体・各商工団体との連携強化、補助金・助成金の活用提案、地域ブランドの普及創出など新たな観点から地域活性化への取り組みを強化しました。

今回の協定締結を機に、7月から開講した第1回「ながはま・こほく創業塾」において、『金融機関から資金調達するには』というテーマで講演する機会を頂きました。講演では「資金の相談はもちろん、創業までの準備、例えば開業する場所や各種設備、仕入先、販路の相談など、お客様のお困り事や不安を少しでも取りのぞけるよう当行のネットワークを駆使してお手伝いします」とお話ししました。それが地域金融機関ならではの役目だと考えるからです。

近世城下町のルーツと言われ、町衆文化が根付く長浜。進取の気風にあふれ相互扶助にもあつい地域です。言い換えれば、「何とかせなあかん」という人々の気概が、この地域の一番の強みであり資源であると思います。これからは地域が主役の時代。今こそ湖北・長浜の資源を活かした取り組みで地域の活性化を、との思いを強くする次第です。

当行は『共存共栄』の精神で、地域の発展のために皆様と一緒に汗をかいていく所存です。

## 地域資源を ブランド化する バイオ技術

大きな市場を有するバイオ医薬の開発には、多くの時間、資金と人材を要するので、起業するには難しい分野です。この分野は製薬会社と共同開発を考えています。

一方、地域の農水産業等については、長浜バイオ大学の教員が持つバイオの知識を活用し産学連携を進め地域の開発や活性化に貢献しようとして取り組んでいます。

## ながはま ドリーム？

起業なんて自分には…。そう思っている人も少なくないはず。もし、ほんやりとでもイメージを持っている人は、「やりたい事」「やってみたい事」について少し考えてみませんか。

長浜にはビジネスチャレンジする人を支援する体制があります。産業になりうる資源もたくさんあります。ピワマスのように、眠っている宝物があるかもしれません。また、黒壁のように新しい魅力を呼び込むこともできるかもしれません。

今回話を伺った皆さんから共通してできた話があります。

それは「人」です。長浜の「人」には独特の魅力があるということ。人口が減少する中でどうやって地域を元気にしていくか。「産官学金」が連携して、産業を支えると言われていますが、長浜の場合はもうひとつ加わります。「産官学金民」の力で支えていると言ってもいいのかもしれませんが。市民が持っている長浜人のDNAで、新しい長浜ドリームも夢ではないかもしれません。